

〔事例3〕摩耶セーフティネット

1997年（平成9年）の須磨区友が丘で起きた「児童連続殺傷事件」をきっかけとして、摩耶地域の老人クラブの会員が、自主的に「子ども見守り活動」に取り組みました。

その後、それがベースとなって、2005年（平成17年）には、学校関係者・PTAも加わり、地域ぐるみで、「子ども見守り活動」の組織＝「摩耶セーフティネット」を立ち上げました。

この「摩耶セーフティネット」は、PTA・老人クラブ・青少協などを中心に結成され、それぞれの母体をベースに、4つの色分けしたグループ名を有し、活動時には、それぞれの色のベストなどを着用しています。

4つのグループとは、

ブルーネット

摩耶小学校の教職員約30名が、各学期のはじめに校区内の要所で立ち番や巡視。地域の祭礼時は、夜間パトロールも行う。

オレンジネット

老人クラブ会員20数名が、毎朝校門近くの2カ所での立ち番や、通学時間帯に校区を巡視。

イエローネット

保護者約300名が、玄関前道路での見送りと出迎えや、買い物ついでにパトロール中のカードを付けて「ついで防犯」の活動を実施。

グリーンネット

同窓会有志と地域の協力者25名が、「摩耶っ子見守り隊」と書かれたカードを付け「ついで防犯」活動を実施。

各グループとも、できる範囲で、それぞれ活動時間・場所を選んで、個々に負担のかからない活動を継続されています。



摩耶小見守り活動（オレンジネット）

※これらの活動は、灘区のホームページ「なだ・防犯ナビ」内、「地域の取り組み」欄に、詳しく掲載されていますので、ご覧ください。

2 「なだ安全安心ネットワーク」

灘区では、地域で活動するボランティア団体・グループ、警察、学校、企業などと連携を図り、灘区における「安全安心」のまちづくりを推進・発展させるための様々な事業に取り組んでおり、それらを総称して「なだ安全安心ネットワーク」としています。

(1) 「なだ・防犯プロジェクトチーム」

まず、いくつかの事業を立ち上げる前段として、事業に対する考え方や、目的を定めるため、区内で活動するボランティア団体、学校、警察、行政関係者にお集まりいただき、2006年（平成18年）3月に、「灘区防犯プロジェクトチーム」を結成しました。

その主なメンバーは、灘防犯協会・灘地区青少年育成協議会・灘区小学校代表校長（生徒指導担当校）・灘警察署生活安全課・東部建設事務所管理課・灘区役所まちづくり支援課（※当時）などの代表者です。そこで、事業を具体化するための様々な話し合いがもたれ、①「灘・防犯ナビ」②「なだ・地域ぐるぐるパトロール」③「なだ・安全安心セキュリティセンター」の事業に取り組むことが確認されました。

なお、この3つの事業が軌道に乗った2008年（平成20年）3月、プロジェクトチームは解散しました。

(2) 「なだ・防犯ナビ」

灘区では、2006年（平成18年）に防犯に関するホームページ「なだ防犯ナビ」を立ち上げ、これまで情報提供を行ってきました。

その後、加古川で起きた事件をはじめ、全国でこどもが事件に巻き込まれるケースが多発したこともあり、「なだ・防犯ナビ」に区内の事件・犯罪の発生場所や、「こども110番の店・家」の所在地を地図上に公開するなど、利用者により見やすく、より扱いやすくするなど、バージョンアップを行いました。



なだ防犯ナビ・マップ